学報 No.66

愛知県立芸術大学　学報

発行日　平成31年3月29日
発　行　愛知県立芸術大学
愛知県長久手市岩作三ケ峯1-114
TEL 0561-76-2851　FAX 0561-62-0083
http://www. aichi-fam-u. ac. jp/

新デザイン棟完成特集

新デザイン棟見学ツアー

新デザイン棟完成特集

新デザイン棟見学ツアー

約2年余りの工事期間を経て、今春、新しくデザイン棟が竣工されました。（旧デザイン棟は改修して別の用途に使うことを検討中）新デザイン棟はキャンパスを構築した吉村順三氏の遺伝子を受け継ぎ、今までの良さを残し、新たな機能を取り入れた建物として完成。デザイン専攻の水津功教授、佐藤直樹准教授、夏目知道准教授の案内で学生とともに見学しました。

（取材・文　小山芳恵）

歴史と伝統を受け継ぎ機能や空間要素を充実

愛知県立芸術大学のキャンパスは、日本を代表する建築家、吉村順三氏の設計による建物やランドスケープによって構成され、1966年の開学以来ほとんどの施設がそのまま使用されてきました。しかし、昨今のデザイン表現の多様化、大型化にともなう制作環境の必要性をはじめ、3Dプリンタ・レーザー加工機などの最新機器の充実などが急務となり、新デザイン棟を計画。旧デザイン棟は残す形で、「キャンパスマスタープラン2011」に基づき平成29年度より新デザイン棟の施工が行われてきました。

新デザイン棟は「今までの良さを残しつつ、今までなかったものを取り入れる」という思いのもと、吉村氏が手がけた既存のキャンパスを継承しながら構成。高低差のあるもとの敷地の造形を生かしながら、各学部をつなぐ東西軸の延長上に新デザイン棟の動線を作り、中棟は透明で開放的な空間にしてキャンパス中央部とのつながりを持たせています。また高低差を生かし、学生の動線も考慮。湿気の多い敷地から作品保護に配慮し高床式にするなど、より快適に作品づくりに取り組める場となりました。

左:佐藤准教授 / 右:水津教授

1 館銘板前にて集合写真撮影
2 プレゼンテーションルーム見学の様子
3 ユニバーサルデザインについて解説
4 サインデザインについて解説
5 アトリエ見学の様子

新デザイン棟へ込めた思い

新デザイン棟は吉村氏の「痩せた形」の設計理念も継承し、学部アトリエなどがある北棟、プレゼンテーション機能を考慮した中棟、コンピュータ室など新たな機能を備えた南棟の3つの棟で構成されています。特に新しいアトリエは旧デザイン棟同様、1年から4年までが大空間に。「先輩と後輩が同じ空間で学び合うすばらしさを引き継ぎました」と水津教授。アトリエ内には新たに制作工房も配置。ここで木工や金工、スプレー作業を行うことで絵画やパソコン作業をする学生もより作品に集中できます。

またコンピュータ室も設け、デジタル教育環境も強化。「アナログのデザイン力をデジタルへ展開する能力を高めていきたい」と水津教授はいいます。他にも作品撮影や録音ブースも備えたユーティリティスタジオ、ワークショップなどに活用できるプレゼンテーションホールなど旧アトリエにはない空間を設置。多様化する学びに対応し、また外部との連携の場として新たな役割を果たしていきます。

新デザイン棟ツアーレポート

topics
注目のトピックス

多機能を備えた作業効率のよい新アトリエ

新しいアトリエは学年ごとにガラスのパーテーションで空間を確保。高い天井にはフックを設置し、作品が吊り下げられるようになっています。また壁際には棚が設けられ、作品の講評ができるように配慮。金工や木工、スプレー作業を行える制作工房には学生からも「こういうスペースができて嬉しい」と喜びの声が上がりました。

TPOで柔軟に対応するプレゼンテーションルーム

開放感あふれる吹き抜けのプレゼンテーションルームは作品展示スペースとしての活用や、カンファレンスなどが行えるようにプロジェクター装置を設置。天井は採光を調整できるルーバー式を採用、作品展示のためのフックも備えられています。床暖房も完備、「床に大の字で横になりたくなる」と皆が絶賛する暖かさです。

動画制作にも対応する撮影スタジオ

天井が高い撮影スタジオはこれまでのようにバック紙を必要とせず、作品撮影ができるように。これまで撮影に限界があった大型の作品も、しっかりと撮影できるようになりました。またアニメなどの動画制作に対応する録音ブースもあり、学生からは「すごい！こういうスタジオがほしいと思ってた！」と感嘆の声が聞かれました。

可変性を重視したサイン計画

プレゼンテーションルーム前の廊下には、プロジェクターでサインを投影。カンファレンスや展覧会など、状況に応じて可変なサインとなっています。「必要な情報をわかりやすく伝えたい」という佐藤准教授の言葉にうなずく学生も。今後は学生の意見やアイデアを取り入れながらさらにわかりやすいサインにする予定です。

すべての人に優しいユニバーサルデザイン

外のエレベーター横や階段に設置された手すりの裏には点字を取り入れ、視覚障害者でも安全に移動できるように配慮。デザイン棟の案内図にも点字を備えています。またメイン階段には照明を取り付け、段差がわかるようにマークをつけるなどすべての人にとって優しいユニバーサルデザインを採用しています。

シンボリックな新デザイン棟の館銘板

新デザイン棟の館銘板は「芸大らしいおもしろくシンボリックなものを作りたい」と佐藤准教授が考案。漢字の「美」の字をデザインし、人のようにも見える館銘板は「宇宙人みたいでおもしろい！」と学生からも好評です。「万が一ぶつかってもケガをしないように」と丸みを帯びた形にするなどの細やかな配慮も考えられています。

ツアーを終えた学生の声

今回、新デザイン棟の見学ツアーに参加した3、4年生の学生からは見学後さまざまな感想が聞かれました。まずは「スタジオが衝撃的だった。撮影場所に困っていたので嬉しい」という声。

またアトリエやプレゼンテーションルームについては「今まで乱雑な風景の中に作品を置くことが多かったが、美しい空間に作品を置いて見ることができるので楽しみです」という意見も上がりました。さらに外の広いピロティや憩いの空間についても「これまで場所の確保が大変だったけれど、ゆっくりと大型作品の制作に取りかかることができそうです」と期待を寄せる声も聞かれました。

これまで以上に整った制作環境に、「創造力もかきたてられる。しっかりといい作品づくりをしていきたい」と意気込む様子が見られました。

news

在学生・卒業生の昨年の主なニュース

期間:平成30年1月から平成30年12月まで

美術学部/美術研究科

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
日本画	平林 貴宏	2005 修了	第73回春の院展	奨励賞
	安井 彩子	2011 修了	第6回郷さくら美術館 桜花賞展	館長賞
	外山 諒	博前 2年	再興第103回院展	入選
	長尾 美輝	博前 2年	再興第103回院展	入選
	青木 万耶	学部 4年	第73回春の院展	入選
	青木 万耶	学部 4年	再興第103回院展	入選
	橋本 薫奈	学部 4年	再興第103回院展	入選
	吉川 由希子	学部 3年	第36回上野の森美術館大賞展	優秀賞・フジテレビ賞
	江川 史織	学部 3年	第36回上野の森美術館大賞展	入選
油画 版画	石場 文子	2016 修了	VOCA展2019 現代美術の展望―新しい平面の作家たち	VOCA奨励賞
	大東 忍	博前 2年	Future Artists Tokyo展2019	出展
	鈴木 彩乃	博前 1年	Future Artists Tokyo展2019	出展
油画	野田 千晴	学部 4年	第39期国際瀧冨士美術賞	特別賞
	山本 絃美	学部 4年	第39期国際瀧冨士美術賞	優秀賞
彫刻	下平 知明	2003 修了	第15回KAJIMA彫刻コンクール	金賞
	児玉 佑司	2017 修了	平成29年度長久手市長賞	
	辻 將成	博前 2年	KRP PUBLIC ART PROJECT	最優秀賞
	辻 將成	博前 2年	ギャラリー美の舎 学生選抜展2018	奨励賞
デザイン	汲田 楓	博前 2年	平成30年度中川運河助成 ARToC10	トライアル部門 採択
	張 羽桐	博前 2年	日本デザイン学会 第3支部	優秀発表賞
	高田 颯平	学部 2年	connectA Award 2018 Exhibition START展	審査員特別賞
	野木 健矢	学部 2年	connectA Award 2018 Exhibition START展	審査員特別賞
陶磁	小枝 真人	2000 修了	第65回日本伝統工芸展	日本工芸会奨励賞
	小枝 真人	2000 修了	平成30年度静岡県文化奨励賞	
	屋我 優人	2013 修了	第49回東海伝統工芸展	中日賞
	横井 友香	2017 卒業	平成29年度長久手市長賞	
	宮下 陽	博前 研修	第48回東海伝統工芸展	入選
	清水 美香子	博前 2年	第49回東海伝統工芸展	入選
	滝本 汐里	博前 2年	第7回そば猪口アート公募展	入選
	藤井 茉弥	博前 2年	第49回東海伝統工芸展	入選
	岩堀 真夕	博前 1年	第13回CBC翔け! 二十歳の記憶展	審査員特別賞
	蒲谷 友理	学部 4年	第26回テーブルウェア大賞 ～優しい食空間コンテスト～	テーブルウェア・オリジナルデザイン部門入選

音楽学部/音楽研究科

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
作曲	坂田 直樹	2006 卒業	第66回尾高賞	
	坂田 直樹	2006 卒業	第28回芥川作曲賞	
	芳賀 傑	2014 卒業	第6回クードヴァン国際交響吹奏楽作曲コンクール	第1位
	岡田 智則	博前 2年	Contemporary Computer Music Concert2019	入選
	倉地 佑奈	博前 1年	北野生涯教育振興会 音楽奨学金	
	澤田 恵太郎	学部 1年	JOE HISAISHI presents MUSIC FUTURE VOL.5 第2回Young Composer's Competition	第1位
声楽	吉田 珠代	2002 修了	第12回岩城宏之音楽賞	
	中道 友香	2012 修了	第22回松方ホール音楽賞	声楽(歌曲・宗教曲)部門 奨励賞
	小林 美咲	2016 修了	第17回三重県文化賞	文化新人賞
	川越 未晴	2017 修了	第9回2018岐阜国際音楽祭コンクール	専門コース、声楽部門一般Ⅰ優勝、岐阜市長賞、文化人特別賞、優秀賞
	川越 未晴	2017 修了	文化庁委託事業〈平成30年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業〉新進演奏家育成プロジェクトオーケストラ・シリーズ 第44回 名古屋	合格(ソプラノ)名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演
	蔦谷 明夫	2017 卒業	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	オーディションに合格、メンバーとして採用
	川田 真由	博前 2年	第9回2018岐阜国際音楽祭コンクール	声楽部門 一般Ⅰの部 第2位
	原田 奈於	博前 2年	第72回全日本学生音楽コンクール	名古屋大会本選声楽部門 大学の部 第2位
	原田 奈於	博前 2年	新国立劇場オペラ研修所 第22期生	合格
声楽	長冨 将士	博前 1年	第72回全日本学生音楽コンクール	名古屋大会本選声楽部門 大学の部 第3位
	中村 侑佳	学部 4年	第9回2018岐阜国際音楽祭コンクール	専門コース、声楽部門 大学生 第2位
	長谷川 智之	学部 4年	第9回2018岐阜国際音楽祭コンクール	専門コース、声楽部門 大学生 第3位
	松原 三和	学部 4年	第19回岐阜市新進演奏家コンサートオーディション	声楽部門 合格
	御前 佳音	学部 4年	第10回東京国際声楽コンクール 本選	大学生部門 入選
	田中 明里子	学部 3年	第72回全日本学生音楽コンクール 北九州大会	声楽部門 大学の部 第1位
	田中 明里子	学部 3年	第72回全日本学生音楽コンクール 全国大会	声楽部門 大学の部 入選
	岡 菜月	学部 2年	第24回みえ音楽コンクール	声楽部門 大学生・大学院生の部 奨励賞
	柴田 千沙都	学部 2年	第28回 日本クラシック音楽コンクール 全国大会	声楽部門 大学女子の部 入選
	寺島 大雄	学部 2年	第20回日本演奏家コンクール本選	声楽部門 大学生の部 第1位
ピアノ	猪子 杏奈	2017 卒業	文化庁委託事業〈平成30年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業〉新進演奏家育成プロジェクトオーケストラ・シリーズ 第44回 名古屋	合格(ピアノ)名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演
	鵜殿 里菜	博前 2年	北野生涯教育振興会 音楽奨学金	
	鈴木 美穂	博前 2年	第42回ピティナ・ピアノコンペティション	特級セミファイナル入選
	天野 穂乃香	学部 3年	全日本アールンピアノコンペティション総合全国大会	F級 第3位、総合全国大会 第2位
	天野 穂乃香	学部 3年	ショパン国際ピアノコンクール in ASIA	全国大会銀賞、アジア大会銅賞
	山下 響	学部 3年	第9回2018岐阜国際音楽祭コンクール	ピアノ部門 大学の部 第2位・文化人特別賞
弦楽器	塚本 衣美	2014 修了	カルロヴィ・ヴァリ シンフォニーオーケストラ	入団(コントラバス)
	加藤 泰徳	2003 卒業	名古屋フィルハーモニー交響楽団	入団(チェロ)
	太田 咲耶	2015 卒業	文化庁委託事業〈平成30年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業〉新進演奏家育成プロジェクトオーケストラ・シリーズ 第44回 名古屋	合格(ハープ)名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演
	牧野 葵	博前 2年	市川市文化振興財団 第31回新人演奏家コンクール	最優秀賞受賞
	荒川 太一	学部 3年	第28回日本クラシック音楽コンクール 全国大会	ヴァイオリン部門 大学の部 第5位(1～4位該当者なし)
	高橋 美香	学部 3年	第21回長江杯国際音楽コンクール	弦楽器部門 大学の部 第2位(1位なし)
	黒川 真洋	学部 3年	第72回全日本学生音楽コンクール 名古屋大会	チェロ部門 大学の部 第1位
	黒川 真洋	学部 3年	第72回全日本学生音楽コンクール 全国大会	チェロ部門 大学の部 入選
	大堀 はな	学部 3年	アジアユースオーケストラ2018	オーディション合格(ヴァイオリン) アジアツアー参加
	久永 彩加	学部 2年	第34回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会	大学生の部 奨励賞
	久永 彩加	学部 2年	第72回東京国際芸術協会新人演奏会オーディション	合格
	岡本 紗季 大田原 聖 才加志 美優 新井 千晶	博前 1年 学部 研究 学部 4年 学部 3年	第1回名古屋 international 音楽コンクール	室内楽部門 第3位(1・2位なし)
	才加志 美優 新井 千晶 岡本 紗季 大田原 聖	学部 4年 学部 3年 博前 1年 学部 研究	ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール2018	特別賞
管打楽器	細川 杏子	2017 修了	平成29年度長久手市長賞	
	平光 優里	2014 卒業	第16回イタリア国際打楽器コンクール	マリンバB部門 第2位
	福岡 詩織	2015 卒業	愛知室内オーケストラ	入団(トランペット)
	星野 朱音	2015 卒業	藝大フィルハーモニア管弦楽団	入団(トランペット)
	佐藤 杏奈	2016 卒業	文化庁委託事業〈平成30年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業〉新進演奏家育成プロジェクトオーケストラ・シリーズ 第44回 名古屋	合格(アルト・サクソフォン)名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演
	深井 蓉子	博前 1年	北野生涯教育振興会 音楽奨学金	
	岩本 麻祐子	学部 4年	第2回名古屋トロンボーンコンペティション	若手演奏家ソロ部門 第3位
	小阪 怜佳	学部 4年	文化庁委託事業〈平成30年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業〉新進演奏家育成プロジェクトオーケストラ・シリーズ 第44回 名古屋	合格(オーボエ)名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演
	岡田 薫子	学部 3年	第5回刈谷国際音楽コンクール	フルート部門一般の部 優秀賞
	岩石 茉奈	学部 3年	第2回名古屋トロンボーンコンペティション	若手演奏家ソロ部門 第1位
	青山 夏大	学部 3年	第4回J.E.T.A学生ソロコンクール本選	第2位
	野本 淳之亮	学部 2年	第20回日本演奏家コンクール本選	木管楽器部門 大学生の部 第3位
	木村 玲	学部 2年	第35回日本管打楽器コンクール	ユーフォニアム部門 第3位
	岩本 麻祐子 中村 沙帆 髙田 和響 岩石 茉奈	学部 4年 2017 卒業 学部 4年 学部 3年	第2回名古屋トロンボーンコンペティション	アンサンブル部門 第1位
	細川 杏子 岡田 麗紗子 安田 莉子 巣立 ひかり 山崎 瑞季	2017 修了 2016 卒業 2017 修了 学部 3年 2017 修了	第92回レオポルド・ベラン コンクール	室内楽部門 第2位

※卒業・修了年は年度で記載しています。

愛知芸大で培ったものを、フランスで育てた10年間

音楽学部作曲専攻作曲コース 2006年度卒業
坂田 直樹 さかた・なおき

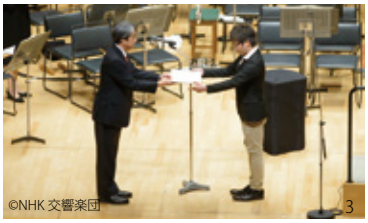
1981年、京都市生まれ。パリ在住。愛知県立芸術大学、パリ・エコール・ノルマル音楽院をそれぞれ首席で卒業。
パリ国立高等音楽院を修了ののち、IRCAMにて研修を受ける。
入野賞、武満徹作曲賞第1位、尾高賞、芥川作曲賞など受賞多数。
これまでにサントリー芸術財団、フランス・ミュージック、フランス文化省など国内外からの委嘱を受け、
作品はNHK交響楽団など、威信のある団体により演奏されている。

私は2003年度から4年間、愛知県立芸術大学の作曲専攻で学びました。在学中はとにかく沢山の曲を書いて、同期の友人と演奏会を開いたり、充実した日々を送ることができました。また、美術学部と音楽学部で積極的に自主企画が行われていたので、音楽以外の世界に触れる機会もあり、大きな刺激になりました。ほかに、当時は芸術祭で朝までお酒を飲みながらばか騒ぎをしていたような時代だったのですが、そこでは創作の苦楽を分かち合う仲間と、何にも代えがたい夢のような時間を過ごすことができました。

振り返ってみると当時の作品はとても稚拙で、結局のところ録音や楽譜はおおかた破棄することになりました。一方で、未熟ではありながらも、そのとき自分が感じていたリアリティを追求したことは、その後の音楽活動に対して大きな糧になったと感じています。

2007年に大学を卒業後、フランスに留学しました。近代から現代までフランスの音楽に特に興味を持っていたので、国選びに迷いはありませんでした。音楽学校としては世界で最も歴史と伝統があるパリ国立高等音楽舞踏院や、音楽における先端技術の応用について、世界でも最高峰の研究施設のひとつであるIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）にて研鑽を積むことで、愛知芸大で得たものを大きく成長させることが出来たと思っています。たとえば、先述の二施設では充実した電子音楽の経験を得ることができました。テクノロジーを用いた制作は自分の耳に変化をもたらし、器楽作品に対する取り組み方にも影響を及ぼしました。また、海外で生活することで、自分のアイデンティティについても深く考えることになりました。試験やプロジェクトの売り込みなど、音楽について言語化する機会も多く、より自覚的に自分の美学を見つめることになりました。

フランスでの学生生活を終え、この10年の集大成として制作したオーケストラのための《組み合わされた風景》は2017年度武満徹作曲賞第1位、第66回尾高賞、第28回芥川作曲賞の3作曲賞受賞という幸運な結果につながりました。ヨーロッパでの経験が評価されたことを嬉しく思うと同時に、誰からも指摘のない曲の一部分に思いを巡らせています。実は、愛知芸大時代の担当教官であった寺井尚行先生から学んだオーケストレーションが作品内に施されています。10年以上前に実践したことが、作品のなかに突然浮かんでくることに驚きと懐かしさを覚えます。この曲は、徒手空拳の自分を育ててくださった彼に捧げられています。



1.2 NHK交響楽団による
「ミュージック・トゥモロー2018」での
《組み合わされた風景》の演奏風景
3 NHK交響楽団による
「ミュージック・トゥモロー2018」での
第66回尾高賞授賞式

現代音楽からJ-POPへ ～河出智希（BOUNCEBACK）～

文：成本理香（作曲専攻作曲コース准教授）

大学院音楽研究科作曲領域 1992年度修了
河出 智希 かわで・ともき

2001年に作詞作曲グループ「BOUNCEBACK」の作曲担当としてデビュー。
2003年に浜崎あゆみ「No way to say」で日本レコード大賞受賞。
2006年AKB48に提供した「会いたかった」はオリコンシングルチャートで60週チャートインを果たす。
他にBoA、EXILE、AAA、Hey!Say!JUMP、DJ OZMA、前川清、岩崎宏美等、現在も多数のアーティストに楽曲を提供している。
エイベックス・マネジメント株式会社所属。

「河出智希」。この名前を見て、「あ!あの!」とピンとくる人がどのくらいいるでしょうか。でも「AKB48の《会いたかった》」と言えば、「あ!あの曲!」とわかる方はとても多いでしょう。河出智希さんは、この誰もが知るヒット曲の作曲者です。そして、愛知芸大の卒業生でもあるのです。

河出さんは、愛知芸大の学部、大学院で学ばれた後、J-POPの作曲家に転身されました。筆者は、河出さんと学生時代が5年間重なっていました。学生時代の河出さんは、とにかくよく「書いている人」でした。作品演奏会、芸祭や試演会などで演奏される彼の作品は完成度も高く「河出さんすごいよね」と同級生とよく話したものです。在学中に第1回朝日作曲賞を受賞、日本サクソフォーン協会第2回サクソフォーンの為の作品コンクール第2位、卒業時にオーケストラ作品により本学の桑原賞も受賞されています。現代音楽や吹奏楽において学生時代からすでにそのセンスは学外にもよく知られるものだったのです。大学院生だったある日「河出さん、卒業したらどうすんの?」と聞いた私に彼は「うーん。僕実はまだ演歌の道も諦めてないんだよね」と答えたのです。その答えを聞いて「どういうことなんだろう」と、とても不思議に思ったものです。

筆者からすると、卒業後東京に行った河出さんは気付いたらヒットメーカーになっていたという印象でした。浜崎あゆみ「No way to say」で日本レコード大賞受賞、AKB48「会いたかった」はオリコンシングルチャートで60週チャートインするロングセラー作品となるなど、エイベックスの作曲家としてヒットを飛ばす河出さんですが、筆者の印象通り卒業後は順風満帆だったのでしょうか。

昨年11月、芸術講座「次世代教育シリーズ」にて、河出さんを本学にお招きしました。講座は筆者が聞き手となって対談形式で行い、そのあたりのこともお話しいただきました。

卒業後デビューするまでは、やはり、紆余曲折だったようです。この日のお話の中で印象深かったのは、ヒット曲を作曲するためにはどのように書くべきかということをじっくりと分析していたということでした。有線でヒット曲をチェックし、徹底的に聴いたとお話しされました。考えてみれば「徹底的に聴く」というのは現代音楽においても重要なことです。

講座の最後、後輩にあたる在学生へのメッセージとして彼は「みんなきっと今は色々と悩むことがあると思う。でも、それは大人になっても同じこと。そして、人生のすべての選択の責任は自分にある」と少し厳しいことを話し、最後に一言「幸せになってください」と締めくくりました。

良い作品を作り出すためにただただそれに打ち込むこと。学生時代も今もその姿勢に変わりのない河出さんは、筆者にとって自慢の先輩であることも学生時代と同じであり、それはまた、本学の誇れる卒業生であるとも言えるでしょう。

芸術講座「次世代教育シリーズ」の様子

芸術講座「次世代教育シリーズ」の様子

音楽学部器楽専攻管打楽器コース（クラリネット）

トン・ブルックス・ノブオ

２０１８年度より音楽学部器楽専攻（管打楽器）准教授に着任いたしました。米ミシガン州のインターロッケン芸術高校、ミシガン大学のクラリネット演奏科とピアノ演奏科で学び、同大学卒業後、日本の桐朋学園オーケストラ・アカデミーに在籍した後、デュポール大学のクラリネット演奏科、ピアノ演奏科の修士課程修了。その後、大阪フィルハーモニー交響楽団のクラリネット首席奏者として、オーケストラや室内楽、ソロコンサートを年間約１００回行ってきました。世界一流の先生方から学んだコツと、その後自分で積み重ねてきた経験を生かして、皆さんが持っている才能を最大限に引き出したいと思います！

教養教育（教職入門ほか）

三品陽平

みしな・ようへい

教養教育（教職課程）の「教職入門」、「教育原理」、「道徳教育指導論」、「教育実習」、その他教職関連業務を担当しています。理学部生物系で進化を学び、5年間岐阜で高校教諭（理科）を勤めました。退職後、大学院に進学し、中部大学に5年間勤務、今年度から幸運にも愛知芸大に奉職いたしました。40年間、憧憬の念を抱きつつも芸術には全く縁のない生活です。これを機に何か新たな趣味でも、と思いつつ何もせずに現在に至ります。

私の研究は、小中学校教員のワーク・ライフ・バランスについてです。男女共同参画社会における市民としての教員の仕事と生活の在り方について、インタビューに基づく質的分析を行っています。

芸術の素養のない私が本校で教職課程担当をすることについて不安もありましたが、多くの学生の熱心な授業参加のおかげで大過なく1年目を過ごせました。毎回の授業感想には鋭い学生意見も見られ、私自身が学びながら授業を作っております。

音楽学部器楽専攻管打楽器コース（トランペット）

井上圭

いのうえ・けい

この度准教授として着任致しました、井上圭と申します。領域は管打楽器で、専門はトランペット奏法の研究です。出身は九州の熊本県で、東京で勉強し、名古屋フィルハーモニー交響楽団への入団を機に２００６年から愛知県に住んでいます。本学との出会いは大学2年次に四芸祭（現五芸祭）での交流が最初だったので、約20年になります。その時に出会った友人達との交流は現在も続いています。本学の卒業生の活躍は目覚ましく、海外での活躍も目立ちます。本学のような名門が今後更に発展していくお手伝いをするこの仕事に使命感と興奮を感じています。これからも微力ながら精一杯取り組んで参りますのでよろしくお願い致します。

message
新任教員紹介

音楽学部作曲専攻音楽学コース
東谷 護 とうや・まもる

2018年4月に音楽学コースに就任いたしました。音楽学という学問領域が一般的には、さほど知られていないところに加えて、私が主専攻とするポピュラー音楽研究は音楽学のなかでもさらにマイナーな存在ですので、本学が私を迎え入れてくださったことに感謝しております。

研究テーマとして、「現代における音楽実践の「場」から生成される音楽文化の研究」と「20世紀以降の音楽表現史の構築」を掲げ、インタビュー調査を中心に一次資料の収集とその分析を地道に行っております。これらの研究成果の一端を専門教育に反映させるよう努力しております。

研究室で論文を執筆したり、学術書籍や学術論文に目を通したり、思索にふけっていたり、などすると、ピアノの音がどこからともなく聞こえてくるたびに、贅沢な環境にいることを改めて思い知らされます。

音楽学部器楽専攻弦楽器コース（コントラバス）
渡邉 玲雄 わたなべ・れお

コントラバスはオーケストラの中で最も低い音域を担当する楽器で、その風貌や特性から『オーケストラの縁の下の力持ち』と呼ばれます。オーケストラの全奏の中からコントラバスの音だけを鮮明に捉えることはなかなか難しいですが、オーケストラ作品にはこの楽器が絶対に欠かせません。料理で言えば、お味噌汁に入れるお出汁のような役割でしょうか。どんな料理でも作品でも、そんな存在がいい仕事をしているものほど、奥深い味わいが生まれると思います。コントラバスの持っている、そんな奥深さに惚れ込んで今に至ります。この楽器の演奏技術は、ここ20年でめざましく進化しています。どんなジャンルの音楽においても融合できる多様性、ソロ楽器としての知られざる魅力とその可能性、コントラバスアンサンブルや弦楽合奏での響きの調和。ますます輝ける可能性の原石を、ここ愛知で、志の高い学生とともに磨き上げていけたらと思います。

message
退任教員紹介

美術学部彫刻専攻
大塚 道男
おおつか・みちお

長久手周辺の景観は40年前の入学時とは大きく様変わりしました。この変化を目のあたりにしながら、学生、教員としての歩みが始まり、恩師、先輩からの指導を励みに後輩となる卒業生を送り出し、成長を見届けてこられたことはこの上ない喜びです。長久手の街で、キャンパスで得たものは計り知れないものがあり、ここで五感をフルに生かし宝物を彫り出すかのように、制作の源泉を探し求めました。

作る空間は長湫の森、展覧会は上野の杜。そして同窓の仲間、学生に助けられながらの一時でした。

退任を迎え三ケ峯の地で新たな制作を始めます。彫刻表現も時代とともに緩やかに変化を続け、そのような影響を受け生み出される作品も多くなる中、実に近代から進歩しないままですが、今少し石と対峙できる時をもつことにします。

美術学部陶磁専攻
太田 公典
おおた・きみのり

陶芸教育は材料である土石や金属酸化物の性質と物質の熱変化を経験として知ることです。それゆえ十分な経験を積むまで制作にもどかしさを私も覚えました。

創作は少し先の時間への想像力です。それは現在の制作に対する挑戦でもあり、私自身も挑戦することが学生と「共に創作する」教育になると考えました。

大学教員になり学術研究の機会にも恵まれ、呉須の青色を測色計で分類するところから始まり、呉須がどのような元素の割合で構成されているかを原子レベルで分類するところまで現在きましたが、私自身陶芸を始めたときには考えもしないことでした。

創作を目に見える形や色のみでなく、印象派が絵画を科学して創作に結び付けたように、科学の眼で陶芸を創作するとどのようなことが起きるか考えています。

これからもう少し創作について考え、作品創りに向かい合うのを楽しみにしています。

音楽学部器楽専攻ピアノコース
松本 総一郎
まつもと・そういちろう

平成5年4月に着任以来、早くも26年が過ぎようとしています。本当にあっと言う間でした。この間、大学は大きな変貌を遂げました。本学は県立芸大時代の和気藹々とした雰囲気の時代から、独立法人化を経てさらに次の時代へと目まぐるしい進展の渦中にあると思います。いま、四半世紀に及ぶ教員生活を振り返ると、さまざまな想い出が脳裏を過ぎります。先ず何よりも、先輩後輩を含めて素晴らしい諸先生方とご一緒できたこと、沢山の感動や出逢いがあったことで、多くを学ばせて頂く貴重な経験を積むことができました。音楽の素晴らしさ、美しさ、奥深さを今さらのように実感し、本学に奉職させて頂けたことに心から感謝の念を表するとともに、今後の愛知県立芸大の成長と発展を祈念致します。

愛知県立芸術大学管弦楽団 第29回定期演奏会

愛知県立芸術大学管弦楽団第29回定期演奏会を11月30日（金）愛知県芸術劇場コンサートホールで開催しました。日本指揮界のトップの一人、尾高忠明氏（２０１８年度本学客員教授）の指揮で、モーツァルトの交響曲第39番とR・シュトラウスの交響詩「英雄の生涯」を演奏しました。特に「英雄の生涯」では尾高氏の成熟かつ漲る音楽に学生たちが見事に応えた名演となりました。つややかな音で歌う弦楽器、それぞれのソロが光った安定の管楽器、大胆に曲の本質に迫った打楽器などすべてが素晴らしい演奏でした。また、コンサートミストレスをつとめた博士前期課程２年の牧野葵さんの曲中の見事なソロは、指揮者を含めた多くの皆様から賞賛の声が挙がりました。

演奏後舞台上で尾高氏から「こんな大学があるとは知らなかった」という言葉が客席の笑いを誘った一幕もありましたが、「こんなに素晴らしい大学であることを知らなかった」という意味であったのは言うまでもありません。本学オーケストラは今までにも数多くの名演を残してきましたが、この「英雄の生涯」は今までで最高の演奏であったと言って過言ではないと思います。幸いにも録画に残すことができ、インターネットで配信されています。

文：福本泰之（音楽学部長）

動画配信（https://www.aichi-fam-u.ac.jp/news/topics_005204.html）

アーティスト・イン・レジデンス

２０１８年度のアーティスト・イン・レジデンスでは、次の５名のアーティストを招聘しました。美術分野ではミョン・フェイエン氏、川松康徳氏（11月～12月）を、音楽分野ではケヴィン・ケナー氏（ピアニスト・マイアミ大学フロスト音楽校教授、６月）、ジュリー・カウフマン氏（宮廷歌手・元ベルリン芸術大学声楽科教授、９月～10月）を招聘しました。

また、昨年度から行っているレジデンスアーティストの公募において、ヒョナ・クォン氏（サウンドプロデューサー・版画家、９月～11月）を招聘しました。

ワークショップや公開レッスン等のプログラムは、多様な文化や芸術に触れる機会となりました。教員や学生と交流を深めることにより、研究・教育の場としての成熟に繋がりました。

1 ミョン氏・川松氏フリートーク
2 ケナー氏公開レッスン
3 カウフマン氏公開レッスン
4 ヒョナ氏アーティスト・トーク

サンクトペテルブルク音楽院との学術交流協定締結

2018年9月1日から5日まで白木彰学長、音楽学コース・安原雅之教授がロシアのサンクトペテルブルクを訪問し、9月3日にリムスキー・コルサコフ記念サンクトペテルブルク音楽院にて学術交流協定を締結しました。同音楽院は1862年に創設され、チャイコフスキーやプロコフィエフなど数多くの音楽家を輩出しているロシアの名門音楽院です。

2019年2月8日に、同音楽院オルガン学部長ダニエル・ザラツキー教授が、愛知県芸術劇場コンサートホールでのオルガンコンサートに出演されました。多忙なスケジュールの合間を縫って本学にも来訪され、ロシアにおけるオルガン文化の歴史をテーマにした演奏付きレクチャーを行うなど、本格的な交流が始動しました。

左：愛知県立芸術大学 学長 白木 彰
右：サンクトペテルブルク音楽院 学長 アレクセイ・バシリエフ

サンクトペテルブルク市街

テレビ取材 大学生情報発信番組「ダイガクモン！」

2018年10月、愛知県豊田市、みよし市、長久手市を中心としたケーブルテレビ、ひまわりネットワークの大学生情報発信番組「ダイガクモン！」に本学を取材していただきました。「ダイガクモン！」は、大学の特色や大学生の生活を伝える番組で、これまでにも愛知県近郊の大学を多数紹介しています。

取材は10月に行われ、本学ならではの講義として、美術では陶磁専攻の「陶磁実技」、音楽では大学院声楽領域の「オペラ総合演習」、弦楽器コースの「器楽研究（弦・チェロ）」の授業が紹介されました。いずれの講義もリポーターによるインタビューや、一部体験も織り交ぜるなど、臨場感の伝わる内容となりました。また、本学の特色ある施設・研究として、法隆寺金堂壁画模写展示館と、普段見ることのできない、模写制作現場を撮影いただきました。そのほか、学生への突撃インタビューや、リポーターと各専攻・コースから集まった学生の座談会などもあり、本学の魅力を凝縮した番組になりました。